

世界の経済は冷え込み、ユー
グスラビア、カンボジアから次
々と緊急アピールが出る。エチ
オピア北部で食料援助などの活
動を続けるティグレ救援協会へ
の海外からの援助額は
四月以降、前年に比べ
四割減った。

「それ以上のことを
私たちからは要求でき
ない。援助に頼らざる
を得ない以上影響は出
ているが、貧しい人の
中でも最も悲惨な状況
に置かれている人を最
優先する方針で対処し

翌年、仲間六人と同協会を組織
した。

大干ばつに見舞われた一九八
四―八五年、外国からの援助は
「政府にも自然にも見放された
絶望の中の忘れがたい
記憶」。それでも四十
カ所に一時避難所を設
け、約二十万人を二
千キロ離れたスーダン
東部に逃がさざるを得
なかったと顔を曇ら
せる。

日本の国際緊急救援
NGO合同委員会の招
きで初来日、「飢餓は

エチオピアで飢餓脱出を訴える

テクレウオイニ・ アセファさん



エチオピア
Teklewoini Assefa
・ティグレ州出身。アディスア
ベバ大中退。77年ティグレ人民
解放戦線に参加。91年8月から
ティグレ救援協会会長。36歳。

ている」

エチオピアは「民族
の博物館」。有力なア
ムハラ族に対し、ティ
グレニア人が自治権拡
大を求めて立ち上がっ

ひと

たのに共鳴、高校教諭の職を捨
て一兵士に。が、「銃を取るの
は簡単。それより生活の苦しみ
を人々と分かち合いたい」と、

いさ。僕の目的と関係ない」。
二度聞いたが、二度とも白い歯
をのぞかせた。

人為的な側面が強い。
慈善ではなく、社会を
変えようとする動きを
支援してほしい」。食
料の現物支給以外は無
給だが、「気にしてな